

令和3年度「教職員の働き方改革に係る意識等調査」の結果について【概要】



令和3年10月20日
千葉県教育庁教育振興部教職員課
電話 043-223-4063

令和3年7月に実施した「教職員の働き方改革に係る意識等調査」の結果がまとまりましたので、その概要をお知らせします。また、併せて同年6月に実施した「教員等の出退勤時刻実態調査」とクロス集計し、分析しましたので、その概要についてもお知らせします。

この調査は、「学校における働き方改革推進プラン（令和3年3月改定）」で示した教職員の意識に係る目標の達成状況を把握するだけでなく、教職員の総労働時間の縮減のために教職員の意識改革をどのように図っていくかを明らかにするために実施したものです。

1 調査方法等

(1) 調査時期

令和3年7月現在の状況

(2) 調査対象校

県内の公立小学校35校、中学校15校、高等学校15校、特別支援学校5校を抽出し、合計70校で実施。

(3) 調査対象教職員

調査対象校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、実習助手、講師（※有効回答数2,172名）

(4) 調査の実施方法

各学校から県教育委員会へ、Web入力により直接回答する。

2 調査結果の概要（グラフ内数値は小数点以下を四捨五入して表示しているため、合計が100%にならない場合がある。）

- 平成30年7月に第1回調査を開始して以降、今回は第6回調査となるが、「子供と向き合う時間を確保できている割合」は63%（前年度比8ポイント減）、「勤務時間を意識して勤務できている割合」は79%（前年度比5ポイント減）であった。
- 「学校における働き方改革推進プラン」で定めた令和3年度の数値目標（「子供と向き合う時間の確保」80%以上、「勤務時間の意識」95%以上）には達しておらず、原因の検証とともに、引き続き業務改善を強く進める必要がある。
- 学級担任や部活動顧問主顧問といった校務分掌は、多忙感と大きな相関がある。
- 経験の浅い教諭等のほうが、在校等時間が長くなる傾向があるが、経験の浅い教諭等ほど、「児童生徒のためであれば、退勤時間が遅くなっても、際限なく仕事がしたい」と回答する割合が多い。若年層へのフォローとともに、働き方に係る意識改革をさらに進めていく必要がある。

(1) 調査結果の推移

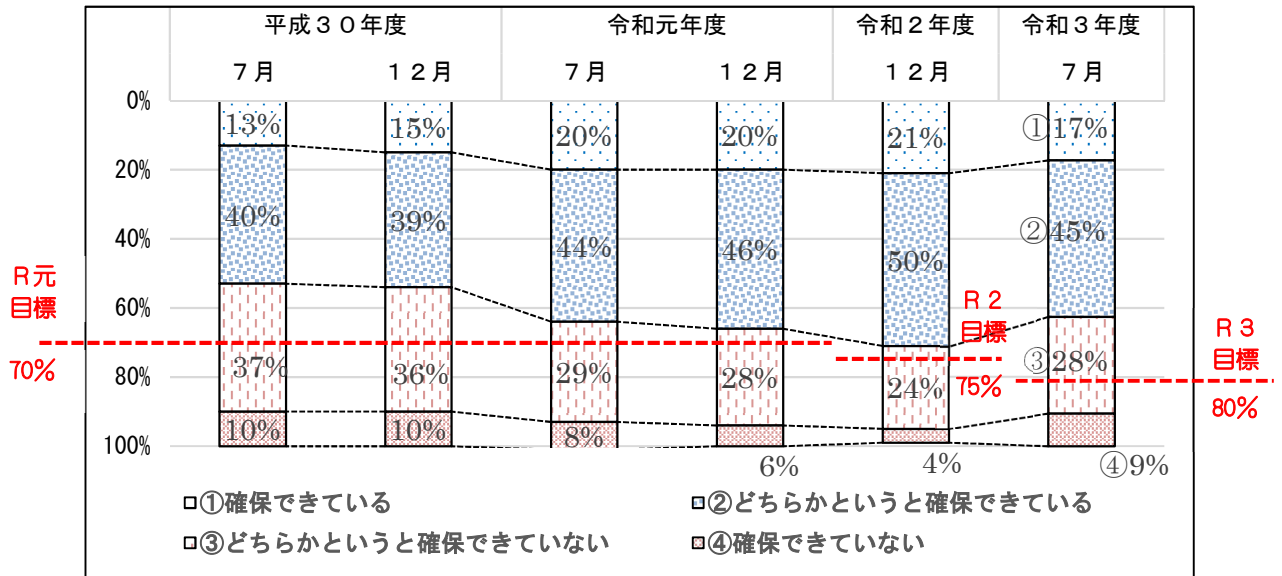
調査時期	子供と向き合う時間を確保できている	勤務時間を意識して勤務できている
R3. 7月	63%	79%
R2. 12月	71%	84%
R元. 12月	66%	75%
R元. 7月	64%	71%
R30. 12月	54%	64%
R30. 7月	53%	63%

(2)「学校における働き方改革推進プラン」の目標達成状況

①子供と向き合う時間が確保できている教職員の割合（※データ編P4参照）

(※) 子供と向き合う時間とは、休み時間や放課後等において、子供たちに補習したり、遊んだり、相談にのったりする時間をいう。

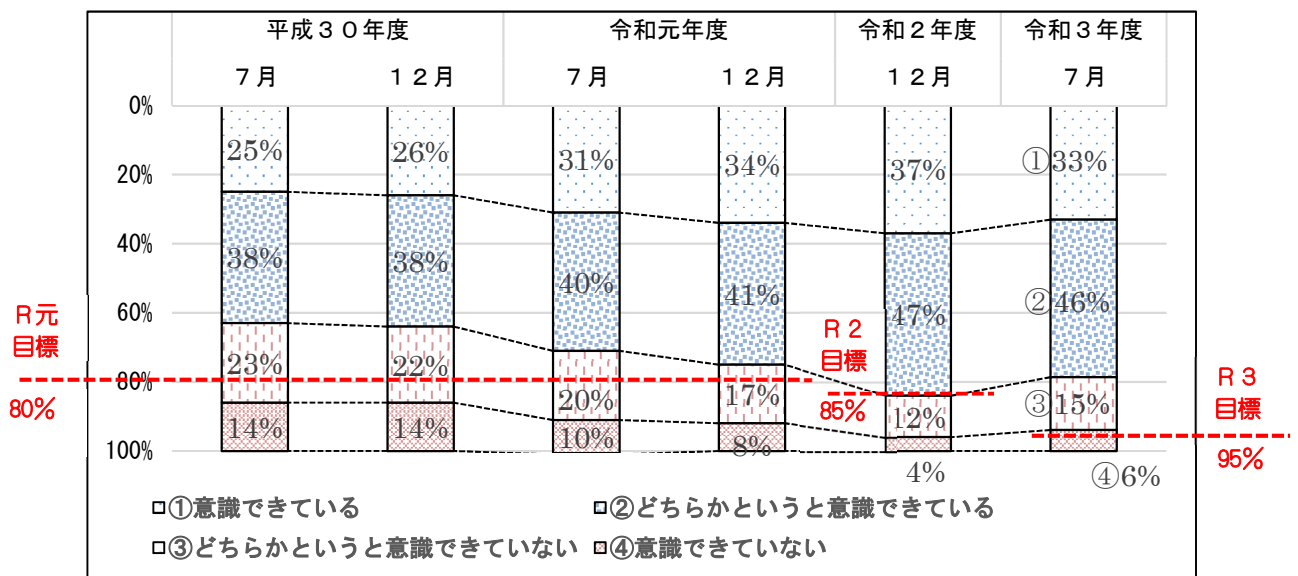
子供と向き合う時間が確保できていると肯定的な回答をした割合は62.5%（約63%）であり、令和2年12月調査の71%から約8ポイント下降し、同月比では、令和元年7月から約1ポイント下降した。令和3年度の目標値に約17ポイント足りず、感染症対策に係る業務の増大が影響したためと考えられる（資料A）。



資料A 子供と向き合う時間が確保できている教職員の割合（全校種：全職種）

②勤務時間を意識している教職員の割合（※データ編P5参照）

勤務時間を意識して勤務することができていると回答した割合は79%であり、令和2年年12月調査の84%から5ポイント下降している。令和3年度の目標値に約16ポイント足りず、感染拡大防止措置を取りながらの活動に対する負担感が大きかったためと考えられる。（資料B）

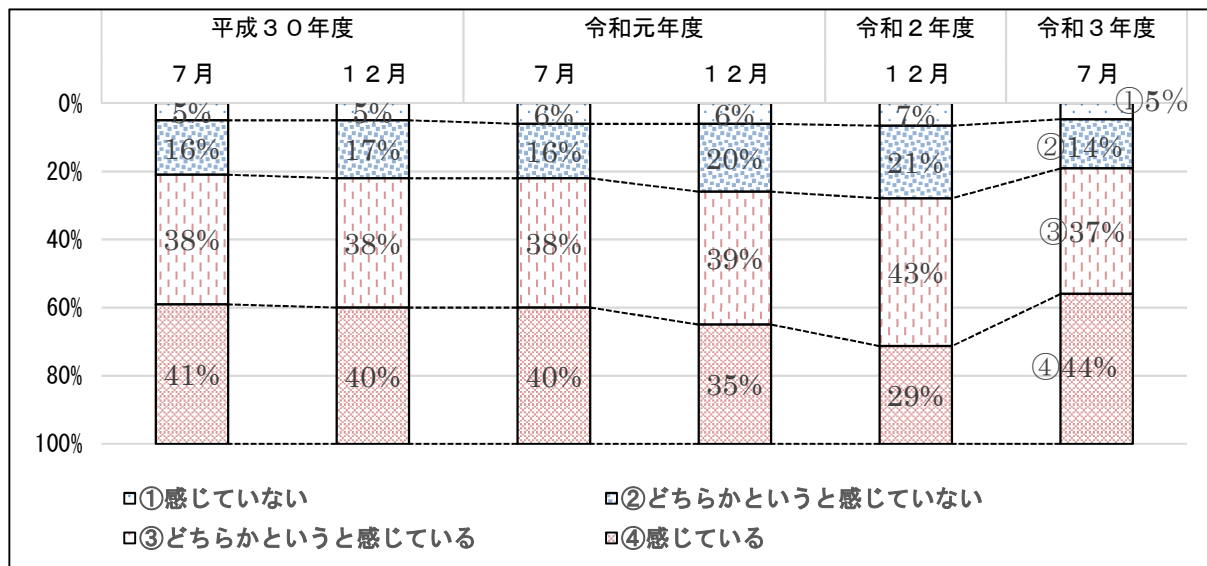


資料B 勤務時間を意識している教職員の割合（全校種：全職種）

(3)「学校における働き方改革推進プラン」の目標達成状況

①業務に「多忙感」を感じている割合（※データ編P 6参照）

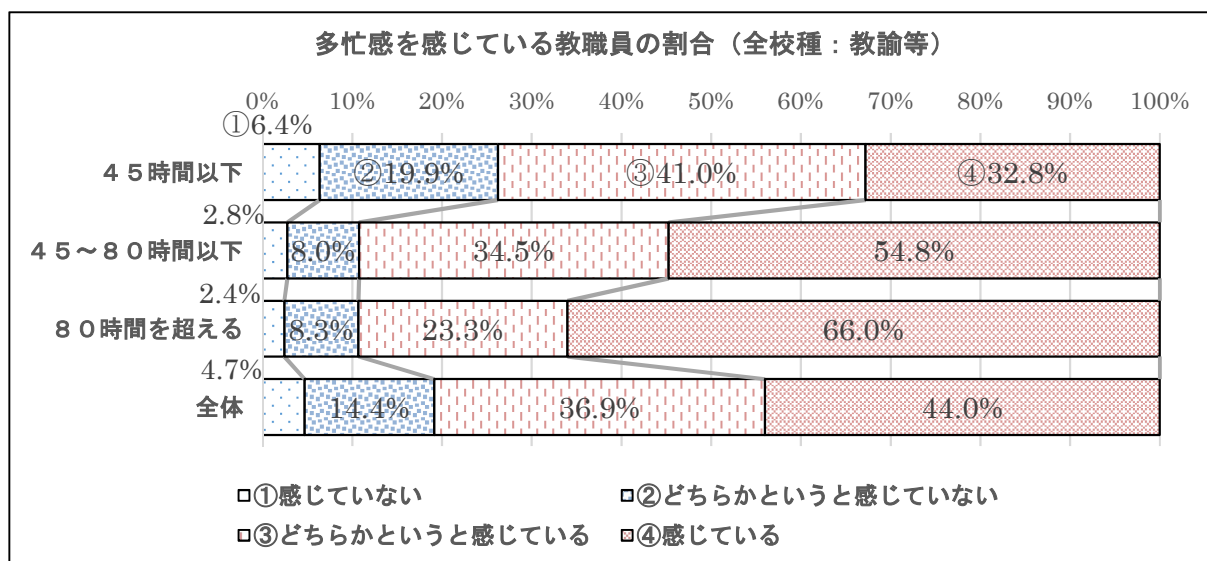
業務に「多忙感」を感じている教職員の割合は81%であり、令和2年12月調査の72%から9ポイント増加しており、改善には至っていない。（資料C）



資料C 業務に多忙感を感じている教職員の割合（全校種：全職種）

②多忙感を感じている教諭等の割合と時間外在校等時間の関係（※データ編P 6参照）

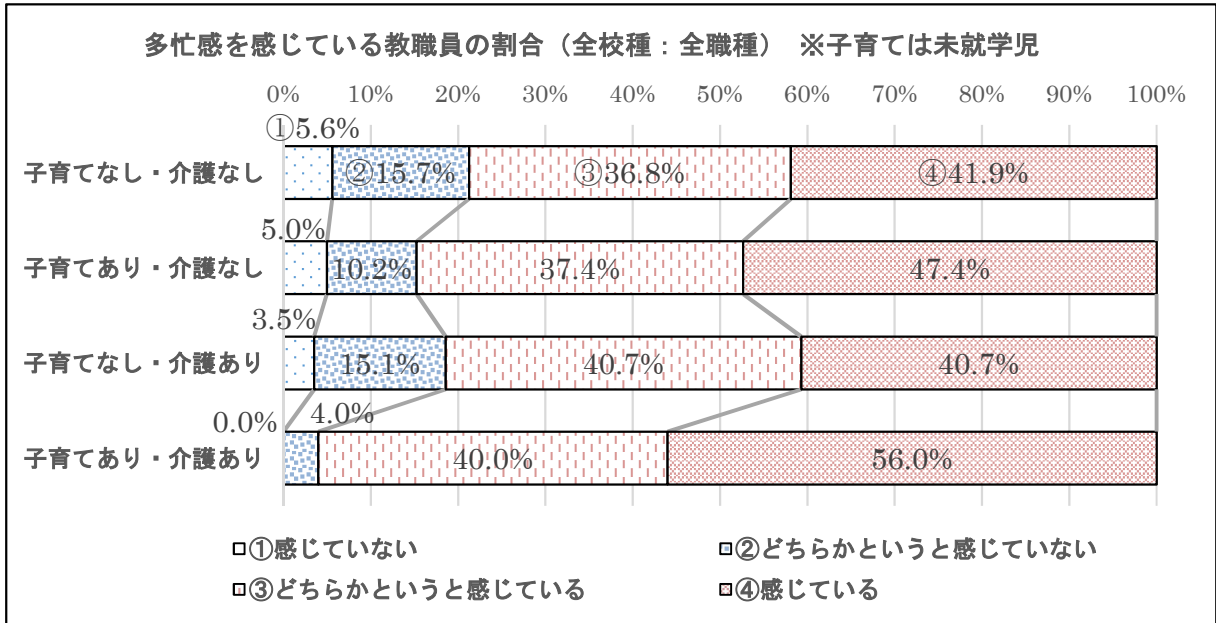
多忙感を感じていると回答した教職員の割合について、時間外在校等時間が45時間以下は約74%（前回69%）、45～80時間以下は約89%（前回78%）、80時間超は約89%（前回80%）となっている。（資料D）



資料D 多忙感を感じている教諭等の割合と時間外在校等時間の関係（全校種：教諭等）

③多忙感を感じている教職員の割合と時間外在校等時間の関係（※データ編P 7 参照）

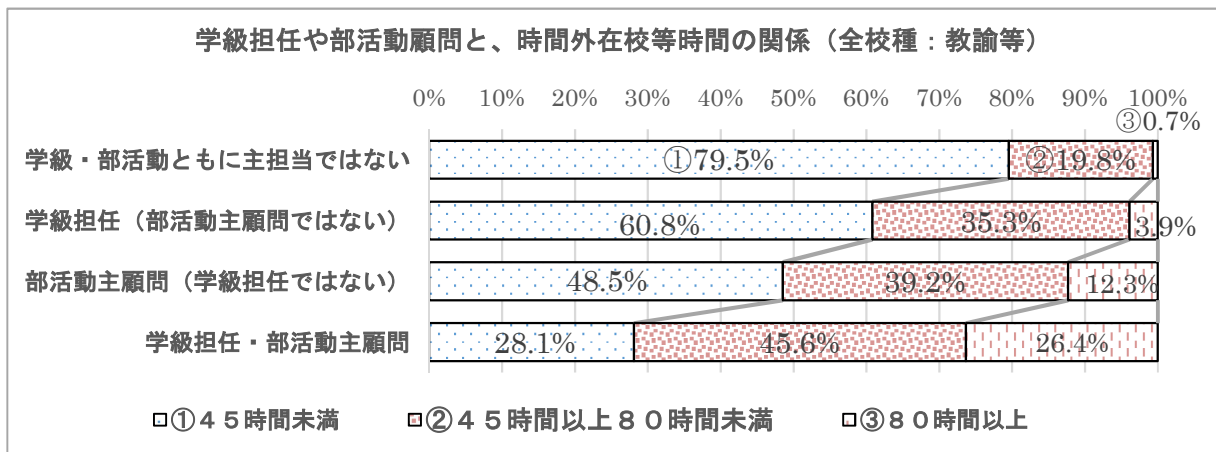
多忙感を感じていると回答した割合については、子育てと介護を同時に行っている教職員の約96%、どちらかの役割を担っている場合でも80%以上が負担感を感じている。（資料E）



資料E 多忙感を感じている教諭等の割合と子育て・介護の関係（全校種：全職種）

④学級担任や部活動顧問と、時間外在校等時間の関係（※データ編P 8 参照）

学級と部活動の両方で主担当をしている場合は、約72%が時間外在校等時間45時間を超えており、4人に1人は80時間を超えている（資料F）。部活動の主顧問と学級担任のうち、どちらかを担当している場合では、担当していない場合に比べて、多忙感を感じている割合が高く、部活動の指導技術と、多忙感（負担感）にも相関がみられる（データ編P 8の資料16・17を参照）

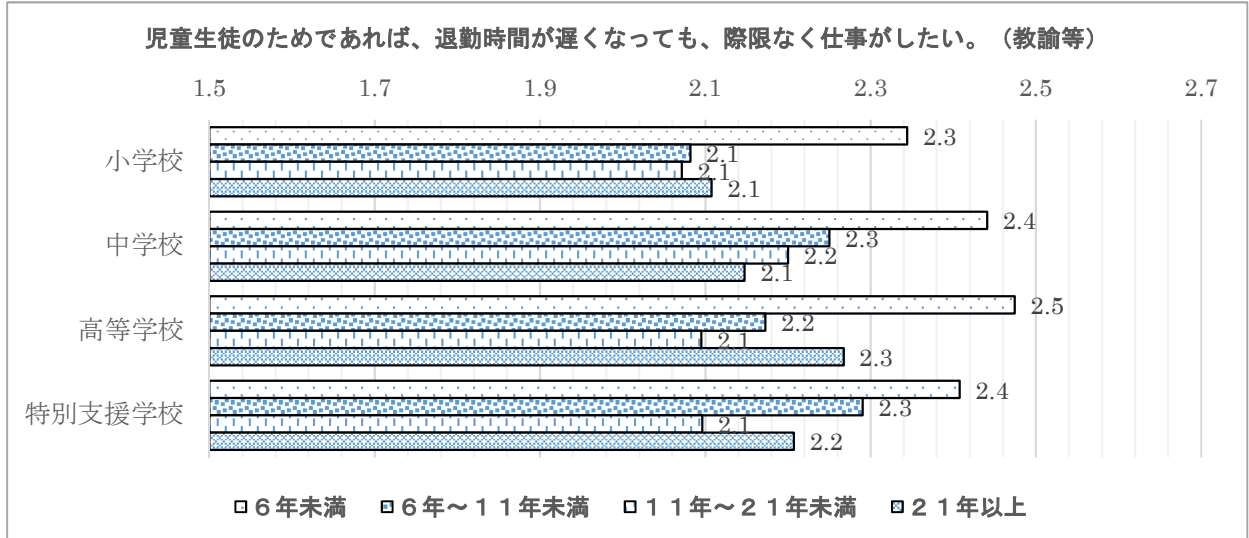


資料F 多忙感を感じている教諭等の割合と学級担任・部活動主顧問の関係（全校種：教諭等）

⑤児童生徒のためなら、際限なく仕事がしたいと回答した割合（※データ編P9参照）

児童生徒のためであれば、際限なく仕事がしたいと回答した割合は、全ての校種で6年目未満の職員が多い。（資料G：下記の1～4を選択して回答）

1：あてはまらない 2：あまりあてはまらない 3：ややあてはまる 4：あてはまる

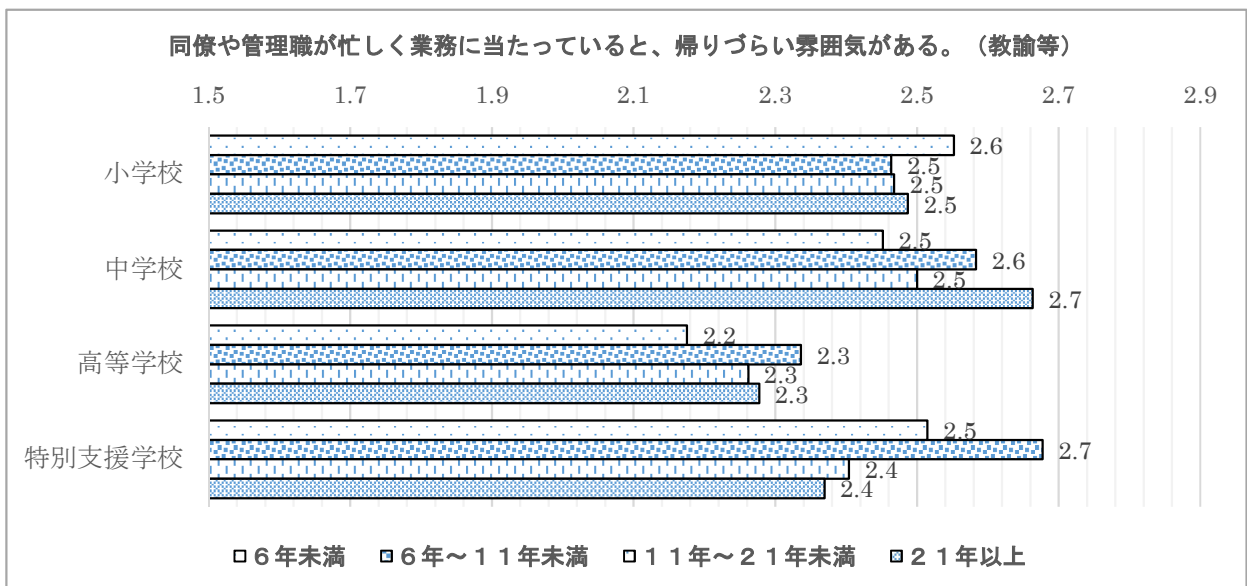


資料G 児童生徒のためであれば、際限なく仕事がしたいと回答した割合（全校種：全職種）

⑥周囲が忙しそうだと帰りづらい雰囲気があると回答した割合（※データ編P9参照）

他の職員が忙しそうだと帰りづらいとの回答は、高等学校では少なく、特別支援学校では年齢層によって差がみられる。（資料H：下記の1～4を選択して回答）

1：あてはまらない 2：あまりあてはまらない 3：ややあてはまる 4：あてはまる



資料H 周囲が忙しそうだと帰りづらい雰囲気があると回答した割合（全校種：全職種）